

令和4年度 道徳教育の抜本的改善・充実に係る事業 「特色ある道徳教育支援事業」 研究指定校の取組



【特色ある道徳教育支援事業】

「特色ある道徳教育支援事業」は、研究校を指定（2年間）して道徳教育の内容の重点化を図った研究を全教育活動において進めるものです。その中において、道徳教育推進教師を中心とした校内体制の充実や、道徳科における「考え、議論する道徳」の実践に向けた指導方法の工夫改善、児童生徒の感性に訴える魅力的な道徳教育用教材の開発と活用など、創意工夫を生かした特色ある道徳教育を推進するための実践研究を行います。

令和4年度は、次の中学校2校で実践を行いました。

- ・ 日光市立東原中学校（2年目）
- ・ 上三川町立上三川中学校（1年目）

このリーフレットでは、本事業に協力いただいた各学校での取組や成果・課題等について紹介しています。

道徳は、平成30年度に小学校、令和元年度には中学校で特別の教科となりました。各学校における道徳教育や道徳科の授業のより一層の充実に向け、実践校での事例を参考にいただければと思います。

* 本リーフレットでは、「特別の教科 道徳」を「道徳科」と表記します。

◇学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた生きる力を育み、生涯にわたって主体的に学び、未来を切り拓くことのできる生徒を育成する。

具体目標：自ら学ぶ生徒【知】、心の豊かな生徒【徳】、たくましい生徒【体】

◇学校の道德教育の重点目標

- ・ 基本的生活習慣を身に付け、集団生活の向上に努めようとする態度を育てる。
- ・ 規則を尊重する態度や、強い意志と勤労意欲を育てる。
- ・ 郷土の伝統と文化を尊重し、自らも地域社会の一員として貢献しようとする意欲を育てる。

<研究の実際>

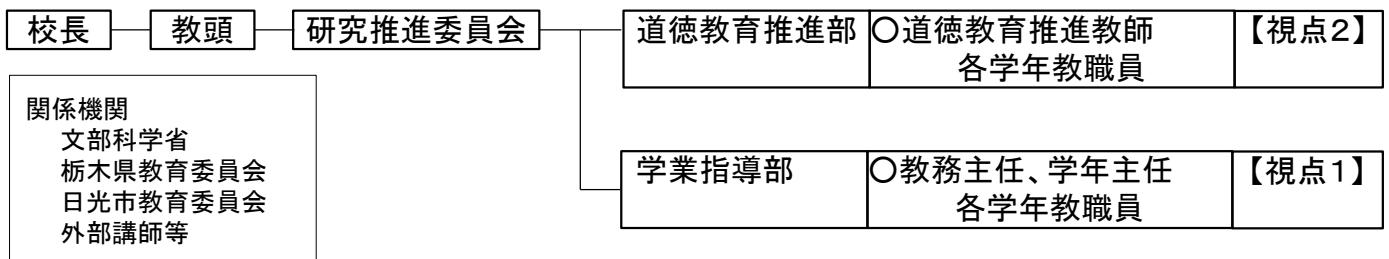
◇ 研究を始める前の道德教育及び道德科の授業の現状と課題等

- ・ 道德教育全体計画や別業を作成しているが、道德教育推進教師を中心として、全教職員で道德科と各教科等との関連を意識しながら指導に当たることができるよう、道德教育におけるカリキュラム・マネジメントが必要である。
- ・ 道德科の授業の質の向上を図るため、研究授業及び授業研究会を実施してきたが、「考え、議論する道德」への質的転換について課題を感じている教職員は多い。

◇研究の視点

- 【視点1】「教え育てる道德教育」におけるカリキュラム・マネジメント
 - ・ 学校行事と道德科の内容項目との関連付け
 - ・ 別業を活用した各教科等における道德性を養うための学習
 - ・ 道德教育推進教師を中心とした全校指導体制の在り方
- 【視点2】道德科の多様な指導方法への質的改善
 - ・ 指導観を明確に持った授業づくり
 - ・ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり
 - ・ 外部講師派遣による道德教育研修の充実
- 【視点3】道德科における個別最適な学びと、協働的な学びの実現
 - ・ 道德科の授業におけるICTの効果的な活用

◇組織体制



教務主任、道德教育推進教師、日光市教育委員会事務局道德教育担当指導主事等で構成される研究推進委員会を設置した。教職員は、道德教育推進部、学業指導部のそれぞれに所属し、全教職員による道德教育推進体制を構築した。

◇主な研究の経過

- 6月 プレ授業(第2学年)、指導案検討会
研究授業(第2学年)、外部講師による講話
- 7月 外部講師による提案授業及び講話
- 8月 プレ授業(第3学年)、指導案検討会
- 9月 研究授業、外部講師による講話
- 10月 プレ授業(全学年)、授業検討会
- 11月 公開発表(全学年)、外部講師による講話

道德教育推進部を中心に道德授業検討会シートを作成し、それを基に研究を進め、教職員による主体的な授業づくりを推進した。

外部講師を5回招聘し、学校のニーズに応じた講話や支援を実施した。
(講話の内容)
「道德科における個別最適な学びと協働的な学びの」実現
「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」の指導
「道德科授業 学び方のヒント」
「道德科授業における評価 教師に必要な心構え」
「道德科授業づくりー『指導と評価の一体化』を中心にー」等

<効果的だった取組等>

【視点1】「教える育てる道徳教育」におけるカリキュラム・マネジメント

- 道徳教育推進教師と各教科等担当者として確認し、「学習指導要領解説 特別の教科道徳編」の「(1)内容項目の概要」や「(2)指導の要点」に記された内容に、各教科等における道徳教育に関わる教科名や単元名等を記入し、道徳科や各教科等の関連を図った。

〈「18 国際理解、国際貢献」の「内容項目の概要」に教科名や単元名等を記載〉

| |
|---|
| 今日、グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いなが |
| 社3：グローバル化が進む社会（歴史） |
| 英3：Beyond Borders 国境を越えて助け合う大切さを知り、自分に何ができるのかを考える（Unit 6） |
| ら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現 |
| 理3：自然と人間（環境） |
| を図ることが一層重要な課題となっている。私たちは、地球規模の相互依存関係の中で生きており、我 |

- 道徳科と各教科等との関連を図る「タイアップ授業」を行った。教職員の共通理解のもとに、各教科等における単元計画の目標や、学校行事における実施計画のねらい等に道徳教育に関する内容を記載し、内面的資質の育成と道徳的実践の指導の往還を図った。

<タイアップ授業の例>

| 学年 | 内容項目 | 各教科等・活動内容 |
|----|---------------------------|------------------|
| 1 | C-17 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 | 総合的な学習の時間・書道教室 |
| 1 | C-12 社会参画、公共の精神 | 総合的な学習の時間・清掃活動 |
| 2 | C-11 公正、公平、社会正義 | 道徳科・学年道徳(ロールプレイ) |
| 2 | C-10 遵法精神、公德心 | 総合的な学習の時間・環境教育 |
| 3 | C-13 勤労 | 社会科・企業と経済 |
| 3 | C-18 国際理解、国際貢献 | 総合的な学習の時間・地域貢献 |



「社会参画、公共の精神」に関する内容項目と社会科地理的分野「身近な地域の調査」とのタイアップ授業

<生徒の声>

自分たちのすんでいる地域を自分たちの力できれいにしている実感がもて、みんなとの連帯感を感じることができた。

【視点2】道徳科の多様な指導方法への質的改善(授業研究会の充実)

- 指導観を明確にもった授業づくりができるよう、道徳教育推進部が中心となり、各回のつながりを意識して授業研究会を行った。毎回の研究会を深めるために道徳授業検討会シートを活用し、内容の焦点化を図った。

<授業研究会のもち方>

- ・ 授業者による指導略案の作成
- ・ 授業者、道徳教育推進部による指導略案及び授業検討会の実施
- ・ 授業者が担任ではない学級でのプレ授業の実施
- ・ 授業者、道徳教育推進部、市教委指導主事による授業検討会の実施
- ・ 授業者による指導略案の改善・修正
- ・ 研究授業の実施
- ・ 研究協議、講師からの指導助言

<先生方の声>

- ・ 教職員間で授業を検討することは楽しく、道徳科の授業を前向きに考えることができた。
- ・ 計画段階で様々なことを考えておくことで、授業の生徒の発言を拾えるようになった。

<道徳授業検討会シートの一部>

(1) 価値観（道徳的価値）

- 地球規模の相互関係の中で生きている。○国際的視野に立って世界の平和に貢献する。
- 世界の中の日本人としての自覚 ○差別や偏見をもたずに公正・公平に接する。

(2) 生徒の実態 ～内容項目について実態を把握すると、本時に考えさせたいことが明らかになってくる。

- 自分のことを優先して生活している生徒が多い。
- 周りの目を気にして生活をしている。
- 「自分は世界の一員である」という自覚をもつ生徒や意識している生徒は少ない。

【本時のねらい】～生徒の実態から道徳科の授業では、道徳性のどの様相に焦点を当てて授業をするのか。

世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に貢献しようとする実践意欲を育てる。

【視点2】 道徳科の多様な指導方法への質的改善(外部講師の招聘)

外部講師による提案授業



- 白鷗大学 中山和彦講師に、学校教育活動の中で道徳的価値を捉えることが容易ではない内容項目について、提案授業を行っていただいたり、複数回講話をいただいたりした。
生徒とのやりとりを大切にし、その考えを受け止めて生かす指導の重要性を学ぶことができた。

公開授業



〈先生方の声〉

- ・ 教師も生徒とともに学ぶ学習者という意識を大切にしたい。
- ・ 「他者」と対話し、議論することで「腑に落ちる」経験が必要と感じた。
- ・ 「子供にとって心の成長につながるいちばんの評価は、信頼できる先生に認められること」という講師の先生の言葉を大切にしたい。

【視点3】 道徳科における個別最適な学びと、協働的な学びの実現



- 事前のアンケート結果や、生徒の考えを整理した内容を視覚化して提示するために活用した。提示された情報を基に、自分を見つめ直し、道徳的価値を踏まえて自分のこととして考えるという自己理解の充実を図った。



- 生徒それぞれの多様な考えを、画面に一覧表示することにより、他者の考えを知り、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考えることにつながった。生徒の考えを、共有する場合、記名の有無を、場面に応じて配慮した。



- 思考を整理するための図や表を活用しながら、自己を見つめ、自分の考えを整理できるよう工夫した。また、授業の記録を端末やクラウドストレージに保存し、蓄積することで、生徒の成長を積極的に認め励ましていく個人内評価に役立てた。

〈生徒の声〉

- ・ 友だちの考えを知ることが楽しかった。知ることで自分の意見を見直すことができた。
- ・ グラフや表に自分の意見を位置づけることで、客観的に自分を見ることができた。

〈先生方の声〉

- ・ 一人一台端末の活用により、授業中に生徒の考えの記述を提出させ、その場で共有できることは、生徒の多面的・多角的な思考を促す効果があると感じた。

<成果及び課題>

○成果

- ・ 「教え育てる道徳教育」の趣旨を理解した上で実践研究することで、道徳教育の推進だけでなく、道徳科の授業の質的改善にもつなげることができた。
- ・ 学習指導要領の「内容項目の指導の観点」を参考にする機会が増え、教職員の道徳的価値の捉えが深まるとともに、授業において生徒に多面的・多角的に考察させることにつながった。
- ・ 外部講師に道徳教育に関する講話、研究授業に対する指導・助言、提案授業の実施等、継続的に支援を受けることで、校内研修につながりをもたせることができた。
- ・ 外部講師の支持的な雰囲気での指導・助言により、教職員は自信をもち、主体的に協働して授業づくり等の校内研修に臨むことができた。
- ・ ICTを通して自己の心情を可視化することで、生徒は自己の変容や新たな視点に気が付き、多面的・多角的な思考につながった。
- ・ 口頭で意見を発表するよりも、タブレット上で自分の考えを共有することは心理的ハードルが低く、普段、挙手や発言の少ない生徒の考えを取り上げることができた。

△課題

- ・ 今回の研究の成果を、次年度の各教科等の年間指導計画等に反映させ、継続的に指導の改善を図っていくことが必要である。
- ・ 今後は、道徳教育推進教師を中心として、各学年で道徳科の指導について検討を重ね、自走できる学年を目指し、校内組織体制の充実を図る必要がある。
- ・ ICTを活用した授業では、一斉に多くの情報が送信されるため、教師は多様な生徒の意見を分類、整理して授業を構成していく必要がある。教材研究により、予想される生徒の意見をどのように構造的に扱うか、あらかじめ考えておく必要がある。

<今後に向けて>

研究実践の2年間は、新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人との接触に制限がかかり、生徒が自他の共生を感じる機会を設けにくい状況であった。しかし、そのような中だからこそ、道徳教育の視点によるカリキュラムマネジメントを通して、学校全体でよりよく生きるための道徳性を育めるよう研究を推進した。

道徳科における全ての内容項目と各教科等との関連を意識した指導の充実を図り、学校や生徒の実態を踏まえて本校において必要な道徳教育を展開することができた。研究実践を通して見られた主体的に学び合う生徒の姿は、本研究の成果の表れである。今後は、この成果を本校の日々の教育活動につなげていくことが肝要である。

◇学校教育目標

『共に磨き合い、高め合う学校』

- ・自ら学び、物事に粘り強く取り組む生徒
- ・自ら考え、主体的に活動できる生徒
- ・人と関わり、自己を高める生徒

◇学校の道徳教育の重点目標

- ・共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育て、集団や社会の一員としての自覚と責任を育む
- ・主体的に考え、学びを深める(伝え合う力、関わる力を育む)
- ・人間としての在り方や生き方の自覚を深める

<研究の実際>

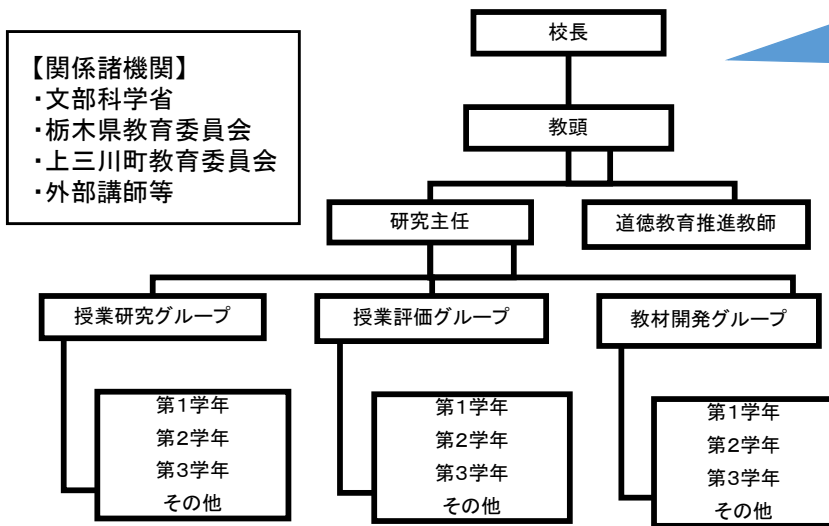
◇研究を始める前の道徳教育及び道徳科授業の現状と課題等

- ・生徒の実態を把握し、内容を重点化した上で、主体的に考えたり伝えたりすることを中心に授業実践に取り組んできたが、「考え、議論する道徳」への質的転換を図る必要性を感じている教職員が多い。
- ・本校の特色として、地域の方々が本校の教育活動に協力的なことや、地域教材が豊富であることが挙げられるが、それらが十分に活かされていない。

◇研究課題

- (1) 学校の教育課題を踏まえた道徳教育の内容の重点化
 - ・共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育て、集団や社会の一員としての自覚と責任を育む
 - ・主体的に考え、学びを深める(伝え合う力、関わる力を育む)
 - ・人間としての在り方や生き方の自覚を深める
- (2) 道徳科の指導の創意工夫
 - ・体験活動及び特別活動をはじめとした各教科等と道徳科を関連させた指導の工夫
 - ・「考え、議論する道徳」の充実
 - ・生徒の実態把握や道徳性の評価を生かした指導の改善
 - ・生徒がより深く価値理解や自己理解をすることができるようなICTの効果的活用
- (3) 指導体制や異校種、家庭や地域社会等との連携体制の充実
 - ・道徳教育推進教師を中心とした全校指導体制の在り方の工夫
 - ・校内研修の充実
 - ・外部講師招聘による道徳教育研修の充実
 - ・学区の小学校2校との連携
 - ・家庭(保護者)や地域社会との連携による特色ある道徳教育の在り方や地域教材の活用等

◇組織体制

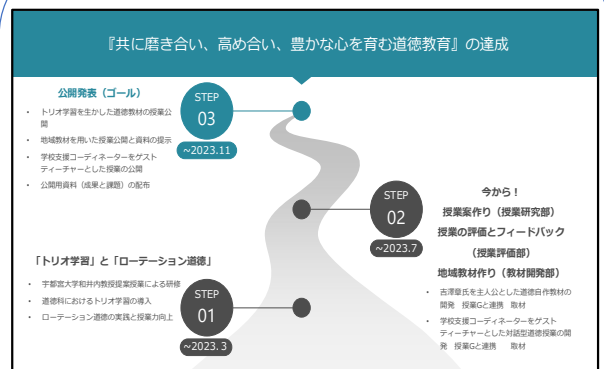


- 【関係諸機関】
- ・文部科学省
 - ・栃木県教育委員会
 - ・上三川町教育委員会
 - ・外部講師等

道徳教育推進教師及び研究主任を中心として、各学年の教職員が3つのグループ(授業研究グループ、授業評価グループ、教材開発グループ)のそれぞれに所属し、全教職員で研究実践を推進する体制を整えた。

◇主な研究の経過

- 5月 ・道徳研究ロードマップ作成
- ・道徳に関するアンケート実施・分析
- 6月 ・外部講師による提案授業
- 7月 ・研究グループ協議
- 8月 ・外部講師による講話
- 9月 ・研究経過の確認と修正
- 10月 ・研究授業
- 11月 ・公開授業視察
- ・授業研究会
- 12月 ・地域教材開発に係る取材
- 1月 ・授業研究会
- 2月 ・研究授業



全教職員でロードマップを共有することで、研究の方向性を確認しながら取り組んだ。

外部講師を4回招聘し、学校のニーズに応じた講話や提案授業を実施し、指導・助言を受けた。

- ・講話
- 「道徳科の特質を踏まえた授業づくりと評価」
- ・提案授業
- 「父のことば」
- (「思いやり・感謝」に関する内容項目)

<効果的だった取組等>

(1) 学校の教育課題を踏まえた道徳教育の内容の重点化

- 上三川町は、創作折り紙の世界的先駆者である吉澤章氏の生誕の地である。「吉澤章折り紙ギャラリー」を訪問することで、氏の生き方を道徳読み物資料として作成するために多くの情報を得ることができた。今後は、資料の活用を通して、本校の道徳教育の重点である「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」に関する内容項目の指導の充実を図ることを計画している。



上三川町出身で創作折り紙の世界的先駆者である吉澤章氏に関する教材開発のため、「吉澤章折り紙ギャラリー」を訪問し、氏の生涯や作品の取材を行った。今後は収集した情報を基に、読み物教材の作成を予定している。

〈先生方の声〉
「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」に関する内容項目について、本校の特色を踏まえながら考えることで理解が深まった。

- 「人間としての在り方や生き方の自覚を深める」という本校の道徳教育の重点目標を図るため、ゲストティーチャーを招いて授業を行った。



本校の卒業生であり、教員として勤めた経験をもつ方をゲストティーチャーとして招き、授業を行った。本校の歴史を知る方に直接質問し、答えていただく形式をとることで、生き生きとした授業が展開された。本時で扱う道徳的価値を基に「自分の事」として話し合いをすることができた。

〈生徒の声〉
学校の歴史について知ることができて楽しかった。多くの人の関わりの中で、今の本校があるのだと思った。

(2) 道徳科の指導の創意工夫

- 3人グループで話し合う「トリオ学習」と呼ばれる学習指導方法を取り入れて授業を実践した。少人数だからこそ生徒は本音を自由に話すことができたり、当事者意識をもって考えたりすることができた。



3人グループで話し合う活動を取り入れることにより、全ての生徒が発言する機会をもつことができ、議論に深まりがみられた。

〈生徒の声〉

- ・ 意見発表の時に、特定の人が発表することが多かったけれど、トリオ学習によってみんなが意見を発表して、それを共有することができて良かった。
- ・ 3人のグループ編成なので、緊張せずに話すことができて良かった。
- ・ いろいろな人と会話ができたり、意見が聞けたりして、考えを深めることができた。

〈先生方の声〉

- ・ 話し合いが活発になり、生徒が主体的に活動していた。
- ・ 普段発言が少ない生徒も3人というグループの中で安心して発言していた。
- ・ 他教科においても自分の考えを伝えようとする意欲の向上が見られ、道徳科とそれ以外の教科との相乗効果を感じた。

(3) 指導体制や異校種、家庭や地域社会等との連携体制の充実

- 宇都宮大学 和井内良樹教授を招いて行った授業研究会では、教職員が道徳科の授業において不安や疑問に感じていることについて回答していただき、全教職員で共通理解を図ることができた。



〈先生方の声〉

- ・ 外部講師の講話を聞き、子供たちが切実感をもって話し合うことの大切さについて再認識した。
- ・ 発問には共感的、投影的など様々な種類があることを知り、自己の発問を捉え直すことができた。

- 教職員が交代で学年の学級を回って道徳科の授業を行う取組(いわゆる「ローテーション授業」)を通して、道徳科の授業において生徒一人一人が自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現することの大切さを全教職員で再認識することができた。

〈ローテーション授業の記録〉

ローテーション授業

○ 主題名 勤労

○ 教材名 「段ボールベットへの思い」

授業者 _____

| | | | | |
|------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 実施日 | ①10/17 | ②10/24 | ③11/7 | ④11/14 |
| 実施学級 | 2年1組 | 2年2組 | 2年3組 | 2年4組 |
| 学習形態 | 一斉・グループ・ <u>トリオ</u> | 一斉・グループ・ <u>トリオ</u> | 一斉・グループ・ <u>トリオ</u> | 一斉・グループ・ <u>トリオ</u> |

○ 展開

| | 学習活動 (○基本発問 ◎中心発問) | 学習形態 及び活用ツール | 〈変更・改善点〉 |
|----|--------------------|-----------------|----------|
| 導入 | ◎「働くこと」のイメージは？ | トリオ | |

授業毎に記録を残し、いわゆる「ローテーション授業」の改善を図った。



〈先生方の声〉

- ・ 担任として学級の生徒の新たな側面を知り、生徒理解につながった。
- ・ 担任だけでなく、学年主任や副担任が授業を行いチームとして生徒に関わることで、授業の展開や発問についての悩みを共有し、よりよい授業に向けて取り組むことができるようになった。

〈生徒の声〉

- ・ 学年の先生方全員に道徳の授業をしてもらい、毎回新鮮な気持ちで取り組むことができた。

<成果及び課題>

○成果

- ・ 重点内容項目を扱う道徳科の授業では、その内容項目と関わりのある学校行事等の出来事を授業において取り上げる工夫をするなど、学校教育活動全体を通じて道徳教育を行う意識が高まった。
- ・ 地域の先人の教材化や、地域人材の活用により、生徒の学習への意欲が高まり、道徳科の授業はもとより、他の教科においても地域との関わりについて生徒が主体的に学習に取り組む姿が見られるようになった。
- ・ 3人による話し合い活動では、生徒は情報を共有することで、自信をもって発表することができた。また、3人という少人数のグループ編成は、意見を交わしやすく、自己の考えを深めていく様子がうかがえた。
- ・ 教職員が交代で学年の学級を回って道徳科の授業を行う取組(いわゆる「ローテーション授業」)は、担任以外の教職員も授業者として加わるため、職員室でも道徳科の授業における生徒の変容を話す場面が多くみられ、生徒の良さに目を向ける機会が増えている。

△課題

- ・ 道徳科の授業において、全体計画別葉に示した各教科等の重点内容項目に関わる学習の相互の関連を考えて、発展させたり統合させたりする道徳教育の要としての役割を果たす工夫をする必要がある。
- ・ 地域の先人の教材化については、収集した情報を整理・分析し、生徒の実態を踏まえて構想を練る必要がある。
- ・ 地域人材の活用については、授業のねらいを達成するためにゲストティーチャーをどう生かし、学習内容との関連を図るかを工夫をする必要がある。
- ・ 3人による話し合い活動では、生徒が自分の意見を述べたり、他人の意見を受け止めたりする中で、互いの意見を比較・検討し、道徳的諸価値について多面的・多角的に考える工夫を更に図る必要がある。
- ・ 教職員が交代で学年の学級を回って道徳科の授業を行う取組(いわゆる「ローテーション授業」)では、担任する学級の生徒たちの授業の様子を客観的に見て、そこで評価したことについて担任として自学級の道徳科の授業づくりにどのように生かしていくかということについても検討していく必要がある。

<今後に向けて>

学校の教育活動に対して、地域の方が協力的であるという本校の実態を踏まえて、特色ある道徳教育を展開している。地域の先人の教材化や地域人材の活用をはじめとして、地域社会との連携を図ることで、生徒、教師共に、自らの故郷・地域について誇りをもつ意識が更に高まった。

このように醸成された雰囲気を生かし、今後は、道徳科を要として、全教育活動を通じて本校における道徳教育の充実を図り、本町の特色を生かして「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」工夫を図りたい。